

## 三字経 (其の二)

訳 仁平重光

青赤黄 及黑白 此五色 目所识

青、赤、黄および黒、白の五色を人はその目で識別する。

酸苦甘 及辛咸 此五味 口所含

酸っぱさ、苦さ、甘さ、辛さおよび塩辛さの五つの味は、口に含むことによって分別することができる。

膻焦香 及腥朽 此五臭 鼻所嗅

羊の臭い、焼け焦げる臭い、いい匂い、および魚肉や血の臭い、腐乱の五つの臭いを、鼻はかぎ分ける。

匏土革 木石金 与丝竹 乃八音

瓢箪、粘土、皮革、木、玉石、金属、弦、及び竹管が楽器を作る八つの材料である。

曰平上 曰去入 此四声 宜调协

平声、上声、去声、入声の四声の高低の変化が調和することによって「ことば」が理解される。中国語の言の美のもとである。

高曾祖 父而身 身而子 子而孙

自子孙 至玄曾 乃九族 人之伦

高祖父、曾祖父、祖父、父、自分、子供、孫、孫、曾孫(ひまご)、玄孫(やしやご)を九族と称す。九族が人の生きる順序である。

父子恩 夫妇从 兄则友 弟则恭

长幼序 友与朋 君则敬 臣则忠

此十义 人所同 当顺叙 勿违背

父の慈しみ、子の孝、夫の和、妻の従順、兄の慈しみの気持ち、弟の恭順、そして長幼の序を守りながら、同朋への義侠心を持ち、友を信頼し、君主を敬い、臣の忠義を尽くすこと。これらを十義といい、人が守るべき道である。これに違背しなければ、社会から争いごとはなくなる。

### 斬斎衰 大小功 至總麻 五服終

斬衰、斎衰、大功、小功、總麻は中国伝統の五種の喪服の名称で「五服」と称する。

### 有古文 大小篆 隶草继 不可乱

古の文字に大篆・小篆・隸・草の字が創造継承され、乱れることがなかった。

### 若广学 惧其繁 但略说 能知原

広く学問を修めようとする者は、その繁雑さを恐れてはならない。ただしその知識の源を知り道理を理解しなければならない。

### 凡训蒙 须讲究 详训诂 明句读

凡(およ)そ学問の入門者に指導する者は、すべからく文字の意義を深く究め、句読を明らかにすべきである。

### 为学者 必有初 小学终 至四书

学ぼうとする者は、必ず文字の形、音、意味の基礎より入り、四書〔論語、孟子、大学、中庸〕に進むのである。

### 论语者 二十篇 群弟子 记善言

論語は孔子の弟子が、孔子の教えたよい言葉を二十篇に編成した書である。

### 孟子者 七篇止 讲道德 说仁义

『孟子』は仁義、道徳を宣揚する七篇〔梁恵王、公孫丑、勝文公、離婁、万草、告子、尽心〕から構成される書物である。

### 作中庸 乃孔伋 中不偏 庸不易

『中庸』は孔子の孫である子思によって著され、「中」と

は「偏らず」、「庸」とは「変わらず」という意味で、孔子思想の中核である。

作大学 乃曾子 自修齐 至平治

『大学』は孔子の弟子である曾子によって著され、個人の人格の完成により国の平和が作られると説いている。

孝经通 四书熟 如六经 始可读

『孝経』に精通し、『四書』をよく読み、それから『六経』を開始するべきである。

※六経＝詩経、書経、易経、周礼、礼記、春秋

诗书易 礼春秋 号六经 当讲求

『詩経』『書経』『易経』『周礼』『礼記』『春秋』は六経といい、知悉(ちしつ)しなければならない。

有连山 有归藏 有周易 三易详

(伏羲の)連山、(黄帝の)帰蔵、(伏羲と文王と孔子が作ったとされる)周易は宇宙万物の原理、自然現象の法則、人類が生きる道を明らかにしたものである。

※連山、帰蔵、易経は易の書

有典谟 有训诰 有誓命 书之奥

『書経』における典〔帝王受命〕、謨〔献策〕、訓〔諫言教訓〕、誥〔詔〕、誓〔信賞必罰〕、命〔命令〕の礼式には虞、夏、商、周四代にわたる歴史によって深められた価値が存在する。

我周公 作周礼 著六官 存治体

我が周公が作った『周礼』には、国を管理する六官の組織体系が著されている。

大小戴 注礼记 述圣言 礼乐备

(西漢の)戴徳、戴聖によって編纂された『礼記』では聖人における礼の精神と各種儀式が詳述されている。

曰国风 曰雅颂 号四诗 当讽咏

『詩経』の内容は国風〔諸国の風土歌謡〕、頌〔祭祀の楽歌〕、

大雅〔帝王への頌歌〕、小雅〔諸侯への頌歌〕とに分かれ、これらを「四詩」と称し、祭時に用いられる。その内容は豊かであり、好く吟詠できるようにしなければならない。